

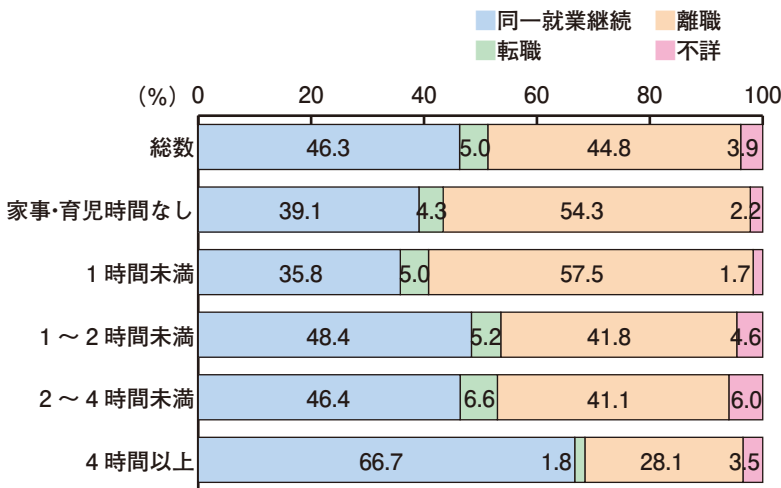
男性が子育てに関わるメリット

第一に子どもの健やかな成長には父親の役割は重要であり、男女が共に子育ての喜びをわかちあえることで、夫婦のパートナーシップも強まります。

また、母親の育児ストレスが軽減され、仕事も続けやすくなります。**データ2**をみると夫の家事・育児時間が多いほど、妻の就業継続率が高くなっていくほか、男性の家事・育児参加率が高い国ほど、出生率も高くなるという報告もあります。

さらに、子育て経験は仕事に有効な能力につながります。アイデアが広がるだけでなく、子育ての時間を確保するために、仕事の効率化も図れます。そして何より人間関係が広がり、父親自身の人生が豊かになります。

データ2 ◆ 夫の平日の家事・育児時間別妻の就業継続率



資料：厚生労働省「第6回21世紀成年者縦断調査」(平成19年)より作成

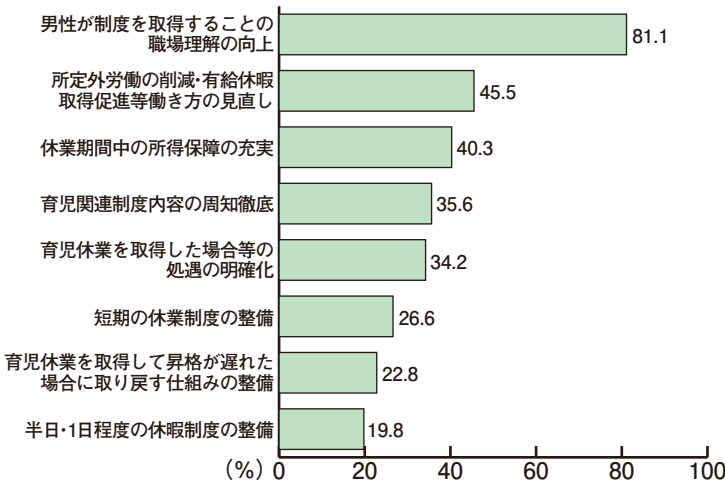
男性の育児参加をはばむ壁

一番の要因は、仕事が忙しく子育ての時間が取れないことです。子育てに忙しい時期はまさに仕事も忙しい時期であり、週60時間以上働いている男性の割合は、30代・40代が最も高くなっています。男性の育児参加を進めていくには、労働時間の見直しは欠かせません。時間管理や仕事の効率化を意識して働く、早く帰りやすい職場の雰囲気をつくるなどの改善が求められます。

一方、子育ては女性の役目とする社会の意識が根強くあることも、男性の育児参加が進まない要因の一つです。そのため、「職場に迷惑がかかるから」と、育児休業を取ることをためらう男性も少なくありません。

データ3の男性の育児参加促進に必要な対応として企業に行ったアンケートでは、男性が育児のための制度を取得することの理解の向上が上位にあげられています。

データ3 ◆ 男性の育児参加促進に必要な対応



資料：(財)21世紀職業財団「男性の育児参加促進研究会報告書」(平成19年)より作成

パパも知って活用しよう！
仕事と子育ての
両立のための支援制度

●育児・介護休業法に定められた両立支援

- 育児休業制度 ※
- 子の看護休暇制度 ※
- 時間外労働の制限 ※
- 深夜業の制限 ※
- 勤務時間の短縮等の措置
- 育児休業等の取得による不利益取扱いの禁止
- 転勤についての配慮

●育児で活用できるその他の休暇制度

- 年次有給休暇 ※
- 連続休暇制度
- 配偶者出産休暇
- リフレッシュ休暇など

●勤務時間を柔軟にする制度

- フレックスタイム制
- 時差出勤制度など

●その他の取組

- ノー残業デー
- 在宅勤務制度など

※ 印の制度は法律で義務化されているので、会社に制度がなくても権利を行使することができます。